

令和 6 年度 管内指導概況報告

(令和 7 年度に向けて)



麓岳山の雲海 写真提供：宮城県観光プロモーション推進室

宮城県北部教育事務所

【 目 次 】

I 学校訪問指導の概要

1	学校訪問内訳	1
2	協働による授業づくり	2
3	指導主事参加型 協働による授業づくり	6
4	学校課題に係る話し合い	13
5	表簿記入上の留意点	16

II 北部管内学校教育の重点と努力点の概況

【幼稚園】	17
【小・中・義務教育学校】	20

III 教育課程編成・実施の現状と課題

1	各種教育について	
(1)	志教育	25
(2)	学ぶ土台づくり	26
(3)	防災教育	26
(4)	道徳教育	27
(5)	心の教育	28
(6)	生徒指導	29
(7)	体力向上と健康・安全教育	29
(8)	放射線等に関する指導	30
(9)	進路指導	31
(10)	国際理解教育	31
(11)	情報教育	32
(12)	環境教育	32
(13)	福祉教育	33
(14)	人権教育	34
(15)	図書館教育	34
(16)	ふるさと教育	35
(17)	主権者教育等	35
(18)	へき地教育	36
2	特別支援教育について	37
3	各教科等について	
(1)	国語	39
(2)	社会	39
(3)	算数、数学	40
(4)	理科	40
(5)	生活	41
(6)	音楽	41
(7)	図画工作、美術	42
(8)	家庭、技術・家庭	42
(9)	体育、保健体育	43
(10)	外国語活動、外国語	44
(11)	特別の教科 道徳	44
(12)	総合的な学習の時間	45
(13)	特別活動	46

IV 研修事業等一覧

1	教職経験者研修（5年経験者研修、中堅教諭等資質向上研修）	47
2	初任者研修	48
3	各種研修等	50

V 管内研究指定等一覧

VI 所管事業関係講師等一覧

VII 令和6年度 園内・校内研究主題一覧

I 学校訪問指導の概要

1 学校訪問内訳

(1) 訪問校園数

	幼稚園				小学校				中学校				義務教育学校			
	一般訪問	特別訪問	指定校訪問	要請訪問	一般訪問	特別訪問	指定校訪問	要請訪問	一般訪問	特別訪問	指定校訪問	要請訪問	一般訪問	特別訪問	指定校訪問	要請訪問
5年度	29	3	0		46	0	1		22	0	0		3	0	0	
6年度	25	2	0		46	1	1		19	0	0		3	0	0	

(2) 授業教科等（授業コマ数）

①小学校及び義務教育学校前期課程

	国語	社会	算数	理科	生活	音楽	図工	家庭	体育	道徳	特活	総合	外国語	特支	計
5年度	27	2	49	6	0	1	1	0	4	7	2	1	1	5	106
6年度	16	4	53	1	4	2	1	0	8	5	0	0	1	9	104

②中学校及び義務教育学校後期課程

	国語	社会	数学	理科	音楽	美術	技・家	保体	外国語	道徳	特活	総合	特支	計
5年度	7	10	7	12	6	0	5	7	10	6	2	0	2	74
6年度	7	7	9	11	1	1	4	3	10	4	1	0	2	60

[北部管内の状況]

- 幼稚園の保育コマ数は、3歳児が15コマ（R5:19）、4歳児が17コマ（R5:15）、5歳児が16コマ（R5:23）、3～5歳児が3コマ（R5:5）、計51（R5:62）コマであった。
- 一般訪問は、要請のあった全ての幼稚園、小・中・義務教育学校で実施した。感染症で研究授業を行う学級が学級閉鎖・学年閉鎖等になった際は、事後検討会のみ実施した。
- 4校時参観について、要請のあった1市2町においては当該小・中・義務教育学校にて実施した。

2 協働による授業づくり

(1) 「学校訪問アンケート」の結果から

実施校数	幼稚園	小学校	中学校・義務教育学校	合計
アンケート提出校／実施校数	25/25	46/46	22/22	93/93
参加人数	175	777	528	1480

質 問	(4：よい，3：どちらかというといよい，2：どちらかというといと課題がある，1：課題がある)			
(1)協働による授業（保育）づくりを計画的に行うことが できましたか。		4	3	2
	幼稚園	35.8%	59.9%	4.3%
	小学校	38.9%	52.8%	7.7%
	中学校・義務教育学校	35.2%	48.7%	15.2%
	平均	37.2%	52.3%	9.9%
(2)ねらいを達成する授業（保育）実践となりましたか。		4	3	2
	幼稚園	24.4%	62.2%	13.5%
	小学校	25.3%	59.3%	13.2%
	中学校・義務教育学校	30.6%	56.9%	12.0%
	平均	27.1%	58.8%	12.8%
(3)授業（保育）改善につながる話し合いを行うことが できましたか。 ※主体的・対話的で深い学び ※幼：幼稚園教育の基本に関連して重視する事項を意識 した保育など ※小・中：個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充 実など		4	3	2
	幼稚園	32.6%	52.6%	7.4%
	小学校	46.2%	48.6%	5.1%
	中学校・義務教育学校	46.2%	48.4%	5.2%
	平均	44.4%	49.1%	5.4%
(4)これまでの協働による授業（保育）づくりの取組が、 自分の授業（保育）実践を見直し、改善につなげる機会 となっていますか。		4	3	2
	幼稚園	48.7%	48.7%	2.6%
	小学校	51.2%	45.2%	3.5%
	中学校・義務教育学校	55.9%	41.0%	3.1%
	平均	52.5%	44.2%	3.2%

(2) 計画的な協働による授業（保育）づくりについて〈アンケートの回答より〉

① 成果 ＜共通＞ ○ 協働による授業づくりによって、教師間や職員間での活発な意見交換が行われ、共通理解を深めることで、授業や保育の質が向上した。 ○ 他の教師との学び合いを通じて、視点が広がり、授業や保育の改善に役立てられている。特に、他教科や異年齢からの視点が、新鮮な気付きにつながっていた。 ○ 児童生徒や幼児が自ら積極的に学び、協力しながら取り組む「主体的な学び」についての話し合いが深まり、その姿勢が授業や保育に生かされていた。 ○ 事前授業や指導案検討会が計画的に行われ、振り返りや意見交換によって、授業や保育を改善することができていた。 ＜小学校＞ ○ 学年部内で計画的に授業づくりが行われ、他学年部や特別支援学級の取組を共有できたことで、教師の視点が広がっていた。 ○ 児童同士が積極的に学び合う姿を目指した授業づくりに取り組むことができていた。 ＜中学校＞ ○ 他の教師と協力して授業内容や指導過程を改善し、様々な視点を取り入れることができていた。複数の模擬授業や検討会を通じて、授業の質を大きく向上させることができた。 ○ 他教科での指導の工夫やICTの活用の仕方を参考にし、教科横断的なアプローチを実践することができた。 ＜幼稚園＞ ○ 定期的に保育活動の計画や流れについて、職員全員で情報共有し、共通理解を深められた。特に、異年齢児交流やクラス活動に関して、計画的に話し合いを深めることができた。 ○ 幼児が自らの興味や関心に基づいて活動に積極的に取り組めるような、遊びや活動を構想することで、協力する心やコミュニケーション力の向上が見られた。
② 今後の課題 ◇ 研修の予定と行事準備や出張が重なり、一部、話し合いが計画的に進まなかったという反省が見られた。 ◇ 課題設定や、授業での手立ての改善について、事前授業やその検討会での課題をより積極的に取り入れていきたい。特に単元や教材のねらいに沿って、学習指導要領解説を読み解き、より議論を深め、児童の実態に合った授業づくりについて考えていきたい。 ◇ 授業検討会では、話し合いの目的や視点を事前に明確にしたい。 ◇ 協働による授業づくりの充実に向けては、単元構想の段階から、グループ全員で取り組むことでより一層改善を図りたい。

(3) ねらいを達成する授業実践について 〈アンケートの回答より〉

① 成果 ＜共通＞ ○ 多くの学校で「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を目指した実践が見られた。児童生徒の学習が深まることを目指している。 ○ 単元を見通した授業や教材の選定が改善され、より効果的な授業が展開されている。 ○ 教師同士の意見交換を通じて、新たな視点や実践方法について、研修が深められており、授業に反映されている。 ○ 児童生徒が自分のペースで学び、振り返りや目標設定を通じて学習を進める姿が見られるようになってきている。 ＜小学校＞ ○ 児童一人一人に合った課題設定を行うなど、「個別最適な学び」の充実が図られてきている。 ○ 学習計画表を活用することで、児童同士の教え合う場面など、主体的な学びが充実してきている。 ＜中学校＞ ○ 生徒が自分の学び方を選択して課題解決に取り組む姿が見られるようになり、生徒の自己肯定感の

高まりがみられるようになった。 ○ ロイロノートなどのアプリケーションを活用することで、生徒の学びが深まってきている。 ＜幼稚園＞ ○ 他の職員と日常的に意見交換を行ったことで、保育の質が向上した。
② 今後の課題 ◇ 授業の型を追究するあまりに、単元や、単位時間のねらいを達成するための必要な学習活動が適切に行われない授業が見られた。児童一人一人の学びの進捗や理解度を把握し、それに基づいた授業を組み立てることが求められる。 ◇ 児童生徒の自己調整力を高めるために、理解度に基づいて、最適な学び方を選択できるような授業展開を工夫することが必要である。 ◇ 誰一人取り残すことなく、全ての子供が主体的に学びに向かうための授業改善が、今後も求められる。 ◇ 課題を追究したり、新たな課題を見出したりするための話し合いや試行錯誤するための時間を適切に設定する必要がある。

（４）授業改善につながる取組について ＜アンケートの回答より＞

① 成果 ＜共通＞ ○ チームワークをもって話し合い、各々の視点を取り入れたことで、授業、保育の質が向上した。 ○ ICTを活用した視覚的な導入の工夫が効果的であった。 ○ 子供が主体的に学び、問題解決に取り組む場面を取り入れたことが効果的であった。特に、小学校や中学校では、児童生徒が自分で課題を選択し、他者と協力しながら問題に取り組む方法が多く取り入れられるようになった。 ＜小学校＞ ○ 児童の思考の流れを意識した、発問や指導過程を工夫することが有効であった。特に「協働的な学び」により、誰一人取り残すことなく、児童が学びに向かう授業づくりに取り組んだ学校が多かった。 ○ 児童一人一人に適した方法で指導を行うことが大切にされている。 ＜中学校＞ ○ 生徒が自身のペースで学習に取り組む学習スタイルに挑戦している授業が見られている。 ○ ICTを活用した視覚的な導入や課題設定により、生徒の学習意欲を高めることができている。 ＜幼稚園＞ ○ 日常的な意見交換により、保育実践の向上が図られている。 ○ 幼児の思いに寄り添い、遊びのイメージを膨らませることや、幼児の自主的な活動を支援するアプローチに取り組むなど、保育者同士の意識改革が図られている。
② 今後の課題 ◇ 授業の型にこだわるのではなく、単元全体を見通した教材研究、発問の吟味、児童の反応やつまづきを授業に生かすことが望まれる。 ◇ 子供を授業や保育の中心におき、子供の思考を引き出すための問い返しやフィードバックの方法を工夫することで、主体的な学びを深めたい。

（５）日常の取組につなげる機会について ＜アンケートの回答より＞

① 成果 ＜共通＞ ○ 授業についての話し合いが日常的に行われたことや、その中で交わされた様々な考えや意見を共有できたことは、教職経験に関わらず、その後の授業（保育）づくりに活用できる大きな学びにつながっている。 ○ 「主体的・対話的で深い学び」「個別最適な学び」「協働的な学び」「ICTの活用」など、今求められている授業の姿に近づくために、教師主導の一斉授業ではなく、「子供が主体となる授業」への転換を図る様々な試みをしながら授業づくりに向かっている。 ○ 単元全体を見通した指導と評価の計画を立て、インクルーシブ教育や他教科等との連携を意識して授業改善に取り組む例が見られた。
--

<小学校>

- 児童が主体的に学び、協力しながら学べる環境づくりが進められ、特に算数で効果的に実践された。発問や教材研究に工夫を凝らし、児童の実態に応じた指導を目指していた。

<中学校>

- 話し合いや学び合いの場を積極的に設定すること、生徒への発問や指示を明確にすることを意識した取組が見られた。

<幼稚園>

- 幼児の興味や関心を尊重し、幼児が遊び込むことができるような活動を日常的に取り入れていた。
- 日常的な異年齢交流を通して、幼児同士の関わりから、社会性の発達を支援する取組が見られた。
- 日常的な話し合いや振り返りを通じて、保育の方向性を共有し、様々な教員のアイデアによって、環境や支援の方法を改善していた。

② 今後の課題

- ◇ 子供の学習意欲を高めるための授業づくりについて、今後も検討が必要である。
- ◇ 単元全体を見通し、学習指導要領の内容と各教科等の指導計画を照らし合わせ、ねらいに沿った授業を組み立てていくことが必要である。
- ◇ 「分かったつもり」でいる児童生徒の学びを深め、確実な理解につながる授業改善に取り組みたい。
- ◇ 担当学年や担当教科を超えた協働的な授業づくりを継続的、日常的に行い、主体的・対話的で深い学びを実現するための授業づくりに取り組みたい。ICTの活用や学習形態、他教科との連携を積極的に進めるため、日常的な情報交換の場を増やしていきたい。
- ◇ 個別の配慮が必要な子供への対応を更に工夫し、一人一人に適した援助を行うことができるようにしていきたい。
- ◇ 幼児が自ら遊びを進められる環境づくりや遊びの連続性を意識し、環境を再構成する方法や、教師の援助の工夫についてさらに検討していきたい。

(6) 参考となる資料等

No.	資 料 名	発 行 元	発行日
1	指導資料・事例	国立教育政策研究所	
2	「子供の学びを支援する5つの提言～自立した学習者の育成を目指して～」	宮城県教育委員会	R5. 3
3	「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料	国立教育政策研究所	R2. 3
4	「全国学力・学習状況調査 授業アイデア例」	国立教育政策研究所	H21～H31
5	NITS 情報提供	教職員支援機構	
6	「宮城県検証改善委員会報告書」	宮城県教育委員会	H25～R6
7	「学力向上に向けた5つの提言 理解 継続 自校化」	宮城県教育委員会	H29. 10
8	「授業改善に役立つアイデア事例」	宮城県教育委員会	H27. 3
9	宮城県総合教育センター 学習指導等に関する資料・研修パック	宮城県総合教育センター	

3 指導主事参加型協働による授業づくり (アンケート結果より)

I 各ステップの取組について 【授業者の先生が回答】

1 STEP 1について

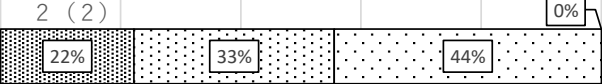
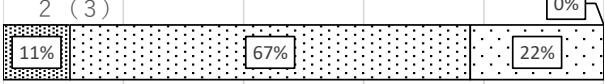
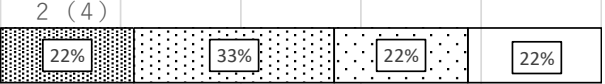
■できた □ほとんどできた □あまりできなかった □できなかった

(1) 単元で重点化する指導事項を学習指導要領（解説編）で確認し、単元で身に付けさせたい資質・能力を明確にすることができましたか。	1 (1) 55% 36% 9% 0%
・指導要領を基に話し合うことで、資質・能力について確認することができた。 ・授業で行おうとしていることが、どの指導事項に基づくものなのか確認することができた。 ・勉強不足、手順の把握不足によりあまりできなかった。 ・学習指導要領で確認しながら単元で身に付けさせたい資質・能力は明確になったが、どのようにしてという具体的なことについて、自分で理解し、考えつくまでには時間がかかっている。 ・指導主事の先生との最初の打合せで学習指導要領の確認と話し合いをしたことで明確になったと感じる。 ・学習指導要領や教科書など、細かく解説いただいただけでなく、単元を通して大切にしなければいけない視点も御指導いただき、大変勉強になりました。	
(2) 指導事項を基に、単元の目標を設定することができましたか。	1 (2) 36% 27% 36% 0%
・目標について助言をいただき、どのような目標にすればよいか見通しを持つことができた。 ・単元目標について話し合ったものの、時間内に設定するには至らなかった。 ・はっきりとはなかったが、大体こういう感じではないかと思うことができた。 ・指導主事の先生の御指導の下、吟味し考えることができたと感じる。 ・STEP1の御指導から、作成しましたが、不備が大変多くあり、STEP2で改善をしていただきました。	

2 STEP 2について

(1) 「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料」を参考に、単元の評価規準を作成することができましたか。	2 (1)					0%
	33%	33%	33%			

- ・評価規準について助言いただいたことを参考に考えることができた。
- ・単元の評価規準では、単元全てを見通して作成することが大切であると感じたが、内容が広すぎて、全ての範囲について考えることに大変さを感じた。
- ・私個人として「指導と評価の一体化」について考えることをあまりしなかったことが反省事項である。
- ・話し合い、共通理解が足りなかった。
- ・授業をする部分に焦点を当て、評価規準を作成する御指導をいただいたため、見通しを持って作成につなげることができました。

(2) 指導事項を基に、単元の目標を設定することができましたか。	2 (2)  <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>進捗率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>22%</td> <td>22%</td> </tr> <tr> <td>33%</td> <td>33%</td> </tr> <tr> <td>44%</td> <td>44%</td> </tr> <tr> <td>0%</td> <td>0%</td> </tr> </tbody> </table>	項目	進捗率	22%	22%	33%	33%	44%	44%	0%	0%
項目	進捗率										
22%	22%										
33%	33%										
44%	44%										
0%	0%										
・指導過程の変更もあり、具体的に考えることができなかった。 ・大きく二つの範囲について考えることにしていたが、評価の一体化のことを考えると一つに絞って授業の方が良いということになり、当日それについての評価規準をどうするかまではたどり着けなかった。 ・単元で何を身に付けさせたいかを考えていく上で評価規準は重要なものであると確認できた。 ・学習活動の想起が難しかった。 ・(1)と同様、指導主事の先生からのご助言から見通しを持って評価規準を作成しました。											
(3) 「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を意識しながら、「主体的・対話的で深い学び」につながるような単元（授業）の構成を考えることができましたか。	2 (3)  <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>進捗率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>11%</td> <td>11%</td> </tr> <tr> <td>67%</td> <td>67%</td> </tr> <tr> <td>22%</td> <td>22%</td> </tr> </tbody> </table>	項目	進捗率	11%	11%	67%	67%	22%	22%		
項目	進捗率										
11%	11%										
67%	67%										
22%	22%										
・子供たちの力を信じ、教え過ぎないようにという指導を生かして考えることができた。 ・内容を一つに絞ることで、授業の構成が考えやすくなったと思います。 ・生徒の実態に応じた授業形態や手法を意識して考えられたと感じる。 ・意欲的に学ぶ生徒が多いので、その姿勢を生かせるような単元構成を考えた。 ・方法的な視点で考えてしまい、本質的な指導と評価の一体化が一致しない結果となった。											
(4) ICTの活用を教師も児童生徒も活用することができましたか。	2 (4)  <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>進捗率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>22%</td> <td>22%</td> </tr> <tr> <td>33%</td> <td>33%</td> </tr> <tr> <td>22%</td> <td>22%</td> </tr> <tr> <td>22%</td> <td>22%</td> </tr> </tbody> </table>	項目	進捗率	22%	22%	33%	33%	22%	22%	22%	22%
項目	進捗率										
22%	22%										
33%	33%										
22%	22%										
22%	22%										
・プロジェクターの使用も検討したが、拡大印刷した図を使用することにした。 ・教師をはじめとして、生徒もICTを選択して活用していた。 ・「3次元の話を2次元のPCや画面で見ることに意味がどれだけあるか。」という話を指導主事の先生にご教授いただいたので、必須ではなかった。 ・必要と感じた時にICTを使える環境が整っていたと思う。 ・シミュレーションソフトなどの活用を検討。生徒はよく活用できたと思う。											

3 STEP3について

	3 (1)								
(1) 本時のねらいは達成できましたか。	43%	29%	21%	7%					
・学年部で考えたものについては、できたと思う。 ・根拠を見付けながら演算決定はしていたが、ブロックや図などを活用しながら展開することができなかった。 ・生徒が自分に合った学びを選択し、協働的に学んでいたと思います。 ・授業者のねらいと授業のねらいにずれがあったと感じた。 ・評価が「思考・判断・表現」になっていたが、授業の中で生徒に求められていたことは「知識・理解」だったと感じました。 ・話し合いもなされ、課題をよく解決していた。 ・自分なりの言葉で説明するなど、ある程度の理解は見られた。ただ、「正しく理解できていたのか」「得た知識を活用できていたか」という点に関しては疑問が残った。									
	3 (2)								
(2) ねらいを達成させる手立ては有効でしたか。	21%	57%	14%	7%					
・問題場面の把握で、全員にブロック操作させる必要があったと感じた。 ・シミュレーションやミニ模型は有効だったが、立体的な事象を平面で理解させるために、更に手立てが必要だと感じました。 ・生徒の意欲が高く、より効果があったと考えられた。 ・「手立て」として準備されたものについては、有効であったと感じたが、学習課題とねらいにねじれがあったと感じました。また、手立てを考える際、授業者が生徒の実態をしっかりと押さえ、生徒に「何をどの程度できるようにさせたいのか」を明確にすることによって、必要な手立てが講じられると考えます。指導案に明記すると良かったと思います。 ・自分で考え、友人と相談し、課題を解決する手順が良かったと思う。 ・シミュレーションソフトやミニ公転モデルは、生徒の活動に効果的だったと思う。									
	3 (3)								
(3) 児童生徒の興味・関心に応じた学習課題に取り組めるよう学習活動を展開することができましたか。	64%	29%	0%	7%					
・子供たちのわくわく感を導入で持たせることができた。 ・興味関心を引き付ける手立ては有効だった。楽しかったと話す児童も多くいた。 ・導入のアプリが良かったです。また、学習を生徒にゆだねることで、関心を持って取り組むことができていたように見えます。 ・一斉から自由進度への移行がスムーズで、学習活動が円滑に展開されていた。 ・自己選択できる場面が多くあったのが良かったと思います。 ・興味の持てる題材で、課題を解決するための手段をいくつか用意し、生徒自身に選択させて考えさせるところも良かったと思う。									

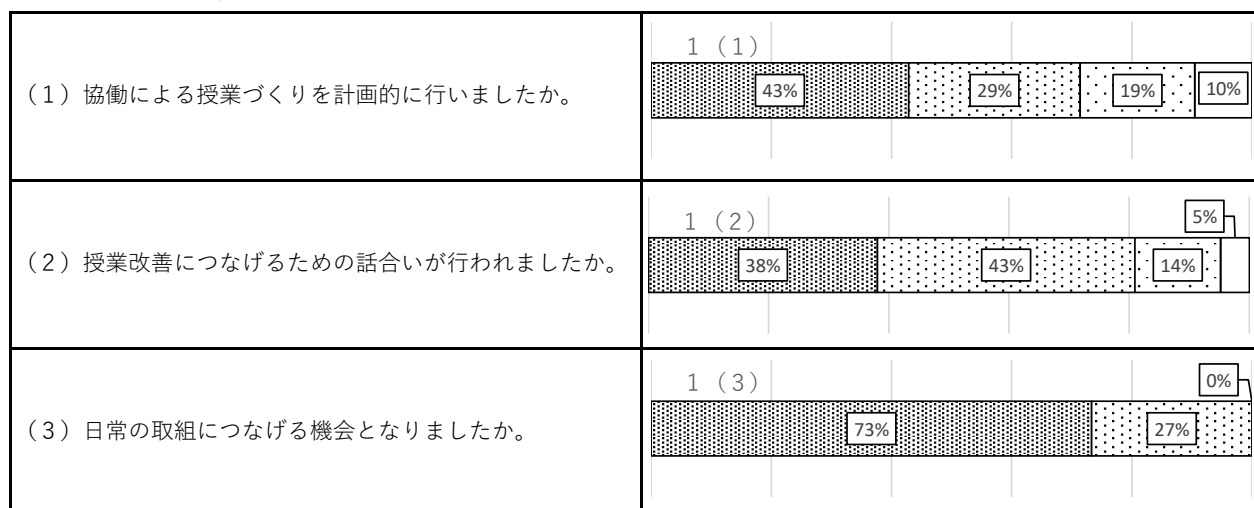
(4) 説明や指示を精選し、児童生徒の活動の時間を十分確保できましたか。	3 (4) 64% 21% 7% 7%
・指導案の検討で、精選されたものになったと思う。 ・教師が授業の流れを誘導した場面もあり、もっと児童同士のやり取りの中で、児童自身に解決させる展開にすべきだった。 ・様々な学習手段で生徒は学習していた。 ・普段の授業からの積み重ねにより、教師の説明や指示が少なくても自ら学びに向かうことができていたと思います。 ・導入部分で少し説明が長く感じましたが、子供たちの話合いの時間は十分確保されていたと思う。	

4 step 1～3を通して、気付いたこと、考えたこと（自由記述）

・検討を始める時期を早くしておけば、余裕を持って指導案を作成することができたと思う。 ・自身の勉強不足を痛感した。授業のねらいや展開を考えていく上で、まずは学習指導要領の内容のどこに基づくものなのかしっかり確認し、理解しておく必要性を感じた。授業づくりのステップを一から学ぶ貴重な研修となった。 ・指導案づくりから授業の流れまで、直接指導主事に入っていたいただいたおかげで、当日の授業を行うことができました。導入時の見通しの持たせ方や評価の仕方、学び合いのさせ方、そして算数コーナーの活用の仕方など、細かな御指導と御助言をいただいたことは、大変勉強になりました。 ・協働による授業づくりは、他の教科の先生が入ることでより深まると思いますが、自分も勉強になりました。 ・ねらいが明確であればあるほど、生徒の活動も意欲的になってくると考えた。 ・今回第1回、第2回と参加できないまま、当日を迎えてしまいました。申し訳ない気持ちでいっぱいです。分科会を通して感じたことですが、今回の授業では「思考・判断・表現」が主なねらいでした。ねらいを達成した生徒の姿を具体的な表現として授業者が思い描き、手立てや課題などを考えることが必要であると感じました。それと同時に、理科だけではなく数学でもどの程度の表現を目指すかなど、教科間で情報共有したり語り合ったりすることで、質を高めていけるのではないかと考えました。数学科だけではよくコミュニケーションが取れていますが、教科の枠を越えて普段からの協働することの必要性を感じました。 ・授業と一緒に考えることで、単元全体を考えたうえで、一つ一つの授業の構成を考えていくことの大切さを改めて考えさせられた。いろいろな先生方の見方があり、参考になった。 ・理科の単元は長く、1単元の計画を立てるのは難しい。向上させたい能力、資質に焦点をあてて、単元計画や指導計画を立てていく大切さを指導主事の先生に教えていただいた。具体的に指導案のつくる方針を教えていただいたことで、今後の作成の参考になったと感じる。 ・自然と協働的な学びができていたと思います。 ・自分の見通しの甘さから、指導主事の先生や分科会の先生方に迷惑をおかけしてしまいました。
--

Ⅱ 指導主事参加型協働による授業づくりの取組について

1 協働による授業づくりについて



2 指導主事が参加して行った協働による授業づくりで、気付いたこと、考えたこと（自由記述）

・事後の検討会で、いろいろな視点で助言いただき参考になった。

・授業づくりをする際は、学習指導要領や指導と評価の一体化に関する資料など、授業者がしっかりと確認した上で行う必要があると気付くことができた。

・出張等もあり、話し合いの時間を設定することが難しかった。

・学習指導要領を確認して目標を明確にすることが、授業づくりの最初の段階として必要なことだと改めて分かった。

・指導主事の先生との検討が、授業日の二カ月前では時間的に厳しい。日程的に、日常勤務をしながらでは負担が大きいのと感じた。

・導入の工夫や算数コーナーの活用について、児童の考えを予想し、より良いものになるよう具体的に話し合いが進められた。児童の立場になって考えることが何より大切だと感じた。

・授業づくりの基本となること（学習指導要領の見方、単元構想の組み立て方など）を職員全員で学ぶことができて、大変良かった。

・最初の段階は参加できず、授業者に負担をかけてしまったことを反省しています。もっとかかわっていかねばならないと思いました。

・指導主事からの助言を生かしながら、学校全体で生徒が分かる授業を作っていきたいと思う。

・第1回目、第2回目に参加できなかったことが残念です。参加できたならば、自分にとってもっと良い学びの機会になったと思いました。

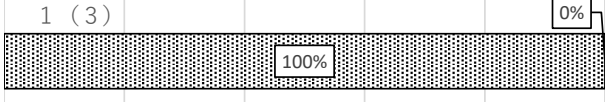
・指導と評価の一体化を考え、単元全体と一つ一つの授業を作っていくことの大切さを改めて感じました。

・時期的な問題もあり、協働的に取り組めなかったところが一番の問題だと感じる。

・今回、指導主事参加型協働による授業づくりに御選出いただいたこと、校長先生をはじめとする管理職の先生方、諸先輩の先生方に感謝申し上げます。指導主事の先生に時間を割いていただき、たくさんの御指導をしていただいたことは、未熟な自分にとって大きな学びとなりました。自分の授業に対する軽率な考えを正していただけるような御助言をたくさんいただき、授業に対して誠実に考える機会となりました。当日の授業では御指導いただいたことを表現できず、情けなく思います。反省点は山のようにありますが、今後の授業改善に生かしたいと思います。

Ⅲ 指導主事参加型協働による授業づくり事業について（管理職回答）

1 協働による授業づくりについて（授業改善の取組の視点で）

（１）指導主事が参加することで協働による授業づくりが促進しましたか。	1（１）  <table border="1"> <thead> <tr> <th>回答</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>はい</td> <td>80%</td> </tr> <tr> <td>いいえ</td> <td>20%</td> </tr> </tbody> </table>	回答	割合	はい	80%	いいえ	20%
回答	割合						
はい	80%						
いいえ	20%						
（２）指導主事参加型協働による授業づくりを通して参加した先生方の意欲は向上しましたか。	1（２）  <table border="1"> <thead> <tr> <th>回答</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>はい</td> <td>71%</td> </tr> <tr> <td>いいえ</td> <td>29%</td> </tr> </tbody> </table>	回答	割合	はい	71%	いいえ	29%
回答	割合						
はい	71%						
いいえ	29%						
（３）指導主事参加型による授業づくりに参加した先生方（学年部・教科部）の取組を他の先生方と共有することはできましたか。	1（３）  <table border="1"> <thead> <tr> <th>回答</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>はい</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>いいえ</td> <td>0%</td> </tr> </tbody> </table>	回答	割合	はい	100%	いいえ	0%
回答	割合						
はい	100%						
いいえ	0%						

2 step 1～3の取組を生かし、step 4をどのような内容や方法で取り組みたいと考えますか。

・教職員の感想に目を通すと、小学校学習指導要領を基にした授業づくりの大切さを、改めて痛感する機会となったようである。また、他の二つの教科でも小学校学習指導要領を基にしたり、話合いの時間を確実に設けたりして、協働による授業づくりが活発に進めることができた。

・算数科授業では、よりよい授業の在り方について、step 3で頂戴しているので、step 4では、改めて授業づくりの基本について、特に主体的・対話的で深い学びとするために大切なことなどが学べる機会を頂戴できればと思います。

・step 1を対象の低学年だけでなく、全教員で取り組ませていただいた。step 4の振り返りは、分科会ではほぼできたので、授業づくり全般について、次に生かせることを御指導いただきたい。

・授業づくりに関して、指導主事より、講話や模擬授業を行っていただくと、大変うれしいです。

step 3での分科会とはまた違った視点での御指導、御助言をいただきたいと思います。具体的には、分科会には、理数科、数学科、社会科、英語科の教員が参加しています。そこで、教科の枠にとらわれず、指導主事先生と共に、「個別最適な学び」と「協働的な学び」について、そしてその「一体化」、様々な手法や実践例等を語り合う時間を設けていただけるとありがたいです。

3 その他（お気づきのこと、ご要望等がありましたらご意見をお聞かせください。自由記述）

・本校教職員と参加していただいた近隣の学校の教職員にとって、教育事務所の指導主事先生から授業づくりについて指導いただいたり、授業づくりの悩みを聞いていただいたりしたことは大きな学びとなりました。協働で考えつくり上げた授業に挑戦し、その練ったはずの挑戦のつまずきにより、自分たちの考えの足りなさや別の視点があることに気付くようにしていただきありがとうございました。

・教職員自身が主体的に授業づくりをしなければならないことに気付かせていただいたいたすばらしい機会となりました。ありがとうございました。

・職員内ではなかなか出ないアイデアを指導主事に出していただくなど、授業づくりに幅や深みができたと思います。貴重な機会をいただき、ありがとうございました。また機会がありましたら、お願いします。

・本校は若手教員が多いため、学習指導要領の読み取りや単元構想の組み立て方など基本的な事項から授業づくりを行えたことは、本校教員にとって大きな財産となりました。中堅層やベテラン層にとっても「学び直し」の機会になりうと思います。

・指導主事が一緒に授業づくりに参加していただくことで、専門的な知識をはじめ、導入から終結までの流れ、時間配分等の適切なアドバイスを直に受けることができることに大きなメリットを感じました。実際のところ当該授業者は今回指導主事先生からの助言をもとに、じっくり考え、大いに悩みました。そして授業をしましたが、本人としては大きな気付きがあったようです。思ったようにいかない悔しさもあったようです。当該授業者はこの思いを忘れず、必ず今後に生かしたいと意気込んでおります。これもひとえに指導主事先生と協働で授業づくりをさせていただいた成果に他なりません。悩んだ時に、協働できるということは教員版の令和の日本型学校教育であると思います。改めて、本事業が授業改善に大きくつながるものであると実感し、深く感謝しております。

4 学校課題に係る話し合い

(1) 「学校訪問アンケート」の結果から

実施校数	小学校	中学校	合計
アンケート提出校／実施校数	2/2	1/1	3/3
参加人数	35	20	55

質 問	(4:よい, 3:どちらかというといよい, 2:どちらかというといと課題がある, 1:課題がある)																		
① 話し合いに向けての事前準備はしましたか。		4	3	2	1														
	小学校	47.1%	50.0%	0.0%	2.9%														
	中学校	65.0%	35.0%	0.0%	0.0%														
	平均	53.7%	44.4%	0.0%	1.9%														
	<table><thead><tr><th>Rating</th><th>小学校 (%)</th><th>中学校 (%)</th></tr></thead><tbody><tr><td>4</td><td>47.1</td><td>65.0</td></tr><tr><td>3</td><td>50.0</td><td>35.0</td></tr><tr><td>2</td><td>0.0</td><td>0.0</td></tr><tr><td>1</td><td>2.9</td><td>0.0</td></tr></tbody></table>					Rating	小学校 (%)	中学校 (%)	4	47.1	65.0	3	50.0	35.0	2	0.0	0.0	1	2.9
Rating	小学校 (%)	中学校 (%)																	
4	47.1	65.0																	
3	50.0	35.0																	
2	0.0	0.0																	
1	2.9	0.0																	
② 話し合いのテーマは適切でしたか。		4	3	2	1														
	小学校	57.6%	39.4%	0.0%	3.0%														
	中学校	60.0%	40.0%	0.0%	0.0%														
	平均	58.5%	39.6%	0.0%	1.9%														
	<table><thead><tr><th>Rating</th><th>小学校 (%)</th><th>中学校 (%)</th></tr></thead><tbody><tr><td>4</td><td>57.6</td><td>60.0</td></tr><tr><td>3</td><td>39.4</td><td>40.0</td></tr><tr><td>2</td><td>0.0</td><td>0.0</td></tr><tr><td>1</td><td>3.0</td><td>0.0</td></tr></tbody></table>					Rating	小学校 (%)	中学校 (%)	4	57.6	60.0	3	39.4	40.0	2	0.0	0.0	1	3.0
Rating	小学校 (%)	中学校 (%)																	
4	57.6	60.0																	
3	39.4	40.0																	
2	0.0	0.0																	
1	3.0	0.0																	
③ テーマに基づいて意見や考えを出し合うことができましたか。		4	3	2	1														
	小学校	48.5%	36.4%	12.1%	3.0%														
	中学校	60.0%	30.0%	10.0%	0.0%														
	平均	52.8%	34.0%	11.3%	1.9%														
	<table><thead><tr><th>Rating</th><th>小学校 (%)</th><th>中学校 (%)</th></tr></thead><tbody><tr><td>4</td><td>48.5</td><td>60.0</td></tr><tr><td>3</td><td>36.4</td><td>30.0</td></tr><tr><td>2</td><td>12.1</td><td>10.0</td></tr><tr><td>1</td><td>3.0</td><td>0.0</td></tr></tbody></table>					Rating	小学校 (%)	中学校 (%)	4	48.5	60.0	3	36.4	30.0	2	12.1	10.0	1	3.0
Rating	小学校 (%)	中学校 (%)																	
4	48.5	60.0																	
3	36.4	30.0																	
2	12.1	10.0																	
1	3.0	0.0																	
④ 学校課題の解決に向け見通しを持ち、日常の取組につなげる機会となりましたか。		4	3	2	1														
	小学校	54.6%	42.4%	0.0%	3.0%														
	中学校	70.0%	25.0%	5.0%	0.0%														
	平均	60.4%	35.8%	1.9%	1.9%														
	<table><thead><tr><th>Rating</th><th>小学校 (%)</th><th>中学校 (%)</th></tr></thead><tbody><tr><td>4</td><td>54.6</td><td>70.0</td></tr><tr><td>3</td><td>42.4</td><td>25.0</td></tr><tr><td>2</td><td>0.0</td><td>5.0</td></tr><tr><td>1</td><td>3.0</td><td>0.0</td></tr></tbody></table>					Rating	小学校 (%)	中学校 (%)	4	54.6	70.0	3	42.4	25.0	2	0.0	5.0	1	3.0
Rating	小学校 (%)	中学校 (%)																	
4	54.6	70.0																	
3	42.4	25.0																	
2	0.0	5.0																	
1	3.0	0.0																	

(2) 話し合いを振り返って

○ーよさ ◇ー今後に向けて

① 話し合いに向けての事前準備について
○ 事前に、ロイロノートを使った情報共有や意見交換を行い、当日の話し合いに臨んだ例が見られた。事前に事例を読み、手立てを考え、課題を共有できていたことで、当日は今後の具体的な実践についての意見を検討することができていた。 ○ 生徒指導の今後の実践について、「生徒指導の実践上の4つの視点」を基にして考えたことで、共通の視点を持った話し合いにつなげることができていた。
② 話し合いのテーマについて
○ 学校に登校していない子供や別室へ登校している子供への支援など、学校の実態や現状を踏まえたテーマでの話し合いが行われた。特に、発達支持的生徒指導の重要性が高まる中で、先生方のこれまでの効果的な指導や、新たなアイデアを共有し、課題解決につながる話し合いが進められていた。
③ テーマに基づいた話し合いについて
○ 実践で抱える悩みを共有し、多くのアイデアを出し合うことで、今後の実践に役立てることができていた。 ○ 少人数でグループ討議を行ったことで、他の先生方の意見から学びを深められた先生が多かったようである。 ○ ICTを活用して、年齢や立場に関係なく意見を効率よく出し合うことができ、話し合いの質が向上した。 ◇ 時間が限られていたため、さらに深い議論を行いたかったという意見もあった。
④ 日常の取組へつなげる機会について
○ これまでの取組を振り返り、今後の課題を見出すことができていた。また、話し合いを行うことで、定期的な実践の振り返りを行うことの重要性を感じている様子が見られた。 ○ 学級経営や授業づくりにすぐに生かせる具体的実践内容を共有することができていた。特に「自己存在感」や「共感的な人間関係」の形成を目指す活動を実践していくことに意欲を示していた。 ○ 学年や学校全体で取り組むべき課題が明確になり、今後は全員で解決に向けて意見を共有し、方策を話し合っていく重要性を感じている様子が見られた。 ◇ 課題を共有したことが第一歩であり、実践に移して成果を上げるために取り組んでいく意欲を持ち続けることが大切である。

(3) 話し合いのテーマ (全体会で学校課題に関わる話し合いを実施した学校：3校)

- ・生徒が行きたくなる学校とは
- ・自己有用感を高めるための学級・学校づくり
- ・教科の指導と生徒指導の一体化を目指して

(4) 話し合いの持ち方の例

- ・ワークショップ (KJ法)
- ・ICTを使った情報共有

(5) 学校課題解決に向け、参考となる資料等

No.	資 料 名	発 行 元	発行日
1	どこにいても、誰かとつながっている (宮城県の児童生徒支援)	宮城県教育委員会	R6. 7. 19
2	生徒指導提要 (改訂版)	文部科学省	R4. 12
3	みやぎSNSナビゲーション	宮城県総合教育センター	R5. 8
4	令和4年度専門研究「学級経営サポートツール」	宮城県総合教育センター	R4 成果物
5	令和3年度情報教育研究グループ「情報モラル育成パッケージ#60秒情報モラル」	宮城県総合教育センター	R3 成果物
6	不登校への支援	宮城県教育委員会	R3. 8
7	生徒指導リーフ Leaf. 1~Leaf. 22 生徒指導リーフ増刊号 Leaves. 1・2・3	国立教育政策研究所 生徒指導・進路指導研究センター	H24. 2~ R3. 7
8	宮城県教職員研修受講システム (Mナビオンライン e ラーニングシステム)	宮城県総合教育センター	R2. 3~
9	MEXT チャンネル	文部科学省	R2. 8~
10	不登校の要因や背景を的確に把握するために ～教職員+SC、SSWによるアセスメントで効果的な支援を～	宮城県教育委員会	R2. 9
11	StuDX Style	文部科学省	R2. 12~
12	不登校児童生徒への支援の在り方について	文部科学省初等中等 教育局長	R1. 10
13	いじめ対策に係る事例集	文部科学省初等中等 教育局児童生徒課	H30. 9
14	平成30年度専門研究「不登校対応パッケージ」	宮城県総合教育センター	H30 成果物
15	第Ⅲ期「魅力ある学校づくり調査研究事業」 (平成26年度～27年度報告書・抜粋版)	国立教育政策研究所 生徒指導・進路指導研究センター	H29. 1~ H29. 5
16	平成29年度「みやぎ小・中学生いじめ問題を考える フォーラム」みやぎっ子宣言	宮城県教育委員会	H29. 11
17	いじめ対応研修テキスト「いじめ対応の手引き」 ～子供たちが行きたくなる安心・安全な学校にするために～	宮城県教育委員会	H29. 3
18	いじめ対応の手引き付属資料 (DVD) ～子供たちが行きたくなる安心・安全な学校にするために～	宮城県教育委員会	H29. 3
19	いじめの未然防止への取組(リーフレット)	宮城県教育委員会	H25. 1
20	リーフレット「いじめ問題への対応～学校の取り組み の徹底について」	宮城県教育委員会	H24. 9

5 表簿記入上の留意点

表簿	番号	留 意 点
指導要録 (様式1・2)	1	情報セキュリティの校内規約を作成し、データ等の管理を適切に行うこと。
	2	児童生徒及び保護者氏名のふりがな(ひらがなの名前も)を記入すること。
	3	保護者氏名及び現住所の変更があった場合は、学齢簿や通知に基づいて訂正を行うこと。
	4	転入学、編入学等があった場合は、通知に基づいて記入すること。※3と4の通知については適正に保管すること。
	5	観点別評価や評定を全ての欄に記入すること。
	6	道徳科の評価については、学習活動における児童の学習状況や道徳性に係る成長の様子を個人内評価として文章で端的に記述すること。
	7	弱視、難聴、肢体不自由、病弱・身体虚弱、自閉症・情緒障害の特別支援学級在籍児童生徒は、知的な遅れがない場合は障害種に合致する様式を使用すること。
	8	入学(入級)時の障害の状態を記述すること(途中入級の場合も記述すること)。
	9	学校に登校していない児童生徒の学習状況や評定については、家庭での取組も含め、評価の材料となるものの累積に努めるとともに「指導上参考となること事項」に働き掛けや支援の内容、取組状況等について記載すること。 ※ R1.10.25 文部科学省「不登校児童生徒への支援の在り方について」(通知) 及び(別記1)不登校等の理由から、教育支援センター等で学習したことを校長が出席と認める場合、「ケアハウス通所〇日」等、市町教委の指導により、校内で統一して記述すること。
(一般) (歯・口腔) 健康診断票	10	裸眼視力は()の左に、矯正視力は()内に記入すること(矯正視力のみでも可)。
	11	聴力は、〇の記入がある場合 25db か 35db を記入すること。
	12	歯科の様式左側(顎関節等の欄)は、0、1、2のいずれかに〇を付けること。
	13	「永久歯のむし歯の状態」は、0、1、2のいずれかに〇を付けること(永久歯がない場合は記入しない)。
	14	校医の印は所見欄等に押印すること(市町教委の指導により押印を必要としない場合は除く)。 ※令和2年11月24日付けス号外「学校保健安全法施行規則の一部改正について(通知)」参照。
出席簿	15	裏表紙の在籍等を適切に記入すること(転出入の記入についても)。
	16	祝日の振替は、「振替休日」ではなく「休日」と記載すること。
	17	記載の仕方を校内で統一すること。
年間指導計画	18	志教育との関連を明記したり、「 みやぎ防災教育副読本『未来へのきずな(絆)』 」の活用を年間指導計画に位置付けたりすること。また、変更等を朱書きしたりするなど、年間指導計画の改善・自校化に努めること。
	19	自校の重点内容項目を明記した道徳教育の全体計画の別葉を作成し、教育活動全体と内容項目の関連を明らかにして活用すること。
	20	学級活動は学習指導要領を踏まえて作成し、全ての内容項目が網羅されているとともに、1単位時間の主な活動の流れを示すこと。
その他	21	児童生徒の個人情報の管理を徹底すること。
	22	表簿については適切な時期に点検整備を行うこと。
	23	公簿の訂正は訂正印を用い、修正液等は使わないこと。
	24	「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」を整備・活用すること。
	25	初任研(1年目)指導記録のA票、B票及び初任研(2年目)指導記録のC票を、適切に作成・管理すること。
	26	電子化に伴い、押印を省略して指導要録等を電子的に作成・送付・保存する場合は、従来の保存により担保されてきた校長の関与等、適正かつ組織的な手順で担保すること。(市町教委の指導によること) ※ H24.3.29 文部科学省「表簿・指導要録等の電子化にかかること基本的な考え方等について」